

博物館の珍品 一江戸に降った白い毛一

まずは写真の白い毛をご覧ください。外見は、ただの毛のようですが、なんと!この毛には、170年前に、空から降ってきたという謂われがあるのです。雨や雪ではなく、毛が空から降ってくるなんて、なんとも奇妙なお話ですが、この毛を包んでいた紙袋には、たしかに天保7(1836)年6月21日、江戸中に毛が降り、珍しいものなので、飛脚に託して鳥取に送り届けたと記されています。

この記述、作り話かと思いきや、江戸の住人藤川貞(1791-1862)が書き留めた『天保雑記』にも、同年6月19日の夜、長さ9~24cmほどの毛が、江戸のみならず、常陸水戸(茨城県水戸市)などでも降ったと記されています。さらに藤川は、降ってきた毛の特徴を、大半が白毛で、まれに茶や上半分に黒い毛がまじ

り、また枝の裂けたものまであったと書いています。館蔵の白毛は、長さが28.5cmあり、毛の降った場所、日にち、そして特徴も、藤川の記述とほぼ一致しています。どうやら、こうした風聞が江戸を発信源に、各地に広がっていたことは事実のようです。

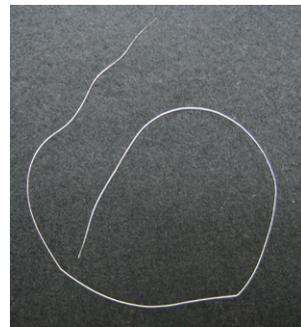
それにしても、空から毛が降るなんて、合理主義的な現代人の自然認識からすれば、酔余の冗談としか思えません。ところが近世の人たちは、こうした現象が起こる要因を、天候不順と関連づけていたようです。天保7年は、いわゆる「天保の飢饉」の真っただ中にあり、全国各地では冷害や暴風雨が続いていました。江戸中期の百科事典『和漢三才図会』によれば、日本や中国では、古来より天から毛

や土が降ってくるの

は、ひどい飢饉のしるしであるとも記しています。珍妙な風聞が広がった背景には、こうした当時の状況と認識があったのではないのでしょうか。

ところで『天保雑記』は、「天馬」という翼をもつ白犬の奇獣を中国の書物から引用し、毛との関連を紹介しています。空飛ぶ犬と聞いては、ますます白毛の正体が気になるところ。そこで当館の自然担当学芸員の協力を得て、分析を進めていますが、その正体を特定するには至っていません。もし同じような資料をご存じの方があれば、ご一報いただけると幸いです。

(学芸課 来見田 博基)



謎の白い毛

コラム

江戸時代の異魚・珍魚

「文化9(1812)年冬、「朝鮮婆」という聞き慣れない魚が鳥取の市場に出まわるようになった。」これは、鳥取藩士岡嶋正義(1784~1859)著『因府年表』に記録されたものですが、その姿は全体に虎のような斑点があり、タラのようなだとあります。近年、不漁のタラに代わって売り出されたが、味は雲泥の差だとも記されます。

この魚、姿の特徴や名称から「ばばちゃん」の愛称を持つ鳥取の特産品「タナカゲンゲ」と思われます。そうだとすると、ばばちゃんの初見記録となりますが、当時の人々にとって怪しげな魚として写っていたことがわかります。

こうした江戸時代の人々が見知らぬ魚たちは、「異魚」「珍魚」として近世の資料には数多く見られます。記録された異魚・珍魚たちを紹介しましょう。

安政6(1859)年10月、田後沖(岩美町田後)で「珍しき魚」が水揚げされました。この珍魚は藩に献上されたため、詳細な記録が残っています(写真)。それによると、魚名は「大宝魚」、体長は頭から尾先のヒゲまで約208cm、口先(吻)は竹筒の様で、尾にヒゲがついていたとしています。この魚は絵からアカヤガラとわかります。注記には吻の干し汁を飲むと「かく病」=胃ガンに効くと記され、藩主が

食したらしいことがわかります。

また、文化元(1804)年6月、岩本川(岩美町)にて体型が六角形、全身が黒い堅い皮で覆われた体長120cmの「異魚」が捕獲されました。里民はだれもその魚名を知らず「六角魚」と呼んだそうです。のち皮を剥ぎ藩へ献上され、チョウザメであることがわかったと『因府年表』に記録されています。

江戸時代には異魚・珍魚のほかにも「異」や「珍」とされるものはたくさんあります。そうしたものを見ていくと、江戸時代人の感性やものの見方など、新たな発見があるかもしれません。

(学芸課 大嶋 陽一)



大宝魚の図

収蔵品にみる三国志

「三国志」とは周知のとおり、魏・蜀の三国時代（220～280年）の歴史を記した史話で、2000年近くも昔の外国の出来事であるにも関わらず、小説やマンガ、あるいはゲームなどで多くの日本人に親しまれています。昨年は赤壁の戦いから1800年にあたり、この戦いをメインにした映画『レッドクリフ』も公開され、ヒット作品となっています。こうした日本人の三国志愛好は現代に限ったことではなく、江戸時代にも『三国志演義』の日本語訳である『通俗三国志』の再版が繰り返され、幕末には北斎の弟子の葛飾戴斗が挿絵をつけた『絵本通俗三国志』が出て強い人気を博し、三国志の物語が広く敷衍しました。

実は当館にも三国志に材を得た作

品があり、6月20日からは「収蔵品にみる三国志」と題し、それらの作品を展示する予定にしています。当館の収蔵品でこうした企画が成り立つのは、江戸時代の鳥取を代表する画家である片山楊谷や土方稲嶺、島田元旦らの作品にこれらを扱ったものが多いことに由来します。もちろん、江戸時代においては様々な画家が三国志を主題とした作品を描いていますが、特に上記3人にその傾向が顕著なのは特筆に値するでしょう。彼らは南蘋派などの中国画風を愛し、その画技を身に付けて一家を成した画家たちです。日本には見られない屹立する険しい山容や、三国志に登場する中国の衣装をまとった孔明や関羽・張飛らの姿を、色鮮やかに、また緻密に表現することは、彼らが得意と



片山楊谷《関羽・張飛図》
(鳥取県立博物館蔵)

したことだったのです。

これらの作品は、近年では徳島城博物館や、馬の博物館、富士美術館でそれぞれ開催された三国志関係の展覧会に出品され、多くの人々の目に触れる機会を得ました。このたびの企画展示では、これらをまとめて紹介する予定にしていますので、これを機にご来館いただき、江戸時代に描かれた三国志の世界をご覧ください。

(美術振興課 山下 真由美)

新収蔵品紹介

伊谷賢蔵 《飛鳥風景 雷村》

1957年、カンヴァス・油彩、60.5×80.0cm、第12回行動美術協会展出品

本稿では、平成19年度に個人のご所蔵家からご寄贈いただいた伊谷賢蔵作品《飛鳥風景 雷村》をご紹介します。

伊谷賢蔵は、1902（明治35）年、鳥取県鳥取市に生まれました。京都高等工芸学校を卒業後、京都の洋画研究機関である関西美術院で油彩画を学び、その後も京都に暮らしながら制作活動を続けます。1945（昭和20）年には、画家仲間向井潤吉らと美術団体「行動美術協会」を立ち上げ、戦後の美術界の振興に寄与しました。

伊谷は、日本の山々を描いた画家としても知られています。本作品は、伊谷が本格的に山岳画の制作を始めた1950年代に描かれました。本作のように赤褐色に染められた山の色は、伊谷作品の最大の特徴です。桜島や阿蘇山、比叡山など多くの山が、この色を用いて描かれています。

また、山容と、麓の人家との組み合わせは、1970（昭和45）年の絶筆に至るまで何度も描かれた主題でした。小品ながら、本作には伊谷の個性が十分に表れているといえるでしょう。



伊谷賢蔵 《飛鳥風景 雷村》1957年

浦上玉堂などの文人画を愛した伊谷は、東洋的な情緒と落ち着きを感じさせる多くの作品を描いています。これは、同時代の洋画家たちの作品には見られない、伊谷の大きな特徴です。

当館では今後も、当県出身の重要な画家の一人として、伊谷賢蔵作品の調査と、常設展示室での紹介を行っていきたいと考えています。

(美術振興課 竹氏 倫子)

美術常設展

2F 美術展示室

さまざまなテーマによる企画展示を行います。

■収蔵品にみる三国志

(併設：新収蔵品コーナー)

6月20日(土)～7月20日(月)

当館が収蔵する館蔵品や寄託品などの中から、三国志にまつわる絵画や版本などを展示紹介いたします。

■夏休み企画

「体感！アーティストの目(仮称)」

7月25日(土)～9月2日(水)

アーティストたちは対象物をどのようにとらえて表現しているのでしょうか？ 実物と作品を見比べ、アーティストのまなざしを体感します。

1F 美術常設展示室

鳥取県ゆかりの江戸時代から現代までの美術作品を展示しています。

鳥取の美術 1	4月15日(水)～6月28日(日)
鳥取の美術 2	7月1日(水)～9月13日(日)

※展示替のため、5月25日(月)、8月10日(月)は休室します。

みんなで守ろう！大切な砂浜

鳥取県の海岸線の半分以上は砂浜です。砂浜には海をきれいにする働きがあり、海の中で暮らしているさまざまな生きものにとっても大切な場所です。学習館では、身近で大切な「砂浜海岸」に着目して参加型の観察会や調査を行っています。



スナガニ

ところで、砂浜海岸を代表する生きものって、何でしょうか？ 砂浜にはいろいろな動植物が暮らしているので、私も最初はすぐに思い浮かびませんでした。今

はその質問に「スナガニ」と答えています。スナガニは甲らの幅が3cmほどのカニの一種で、砂浜に深さ数十cmの巣穴を掘って暮らしています。昼間は巣穴の中にいてほとんど目につきませんが、夜になると巣穴から出てきて活発に活動します。しかし最近では、砂浜が削られてなくなったり、海の水が汚れたりして、スナガニが安心して暮らせる環境が減ってしまっています。スナガニがたくさんいることがきれいで健全な砂浜環境である証拠なので、学習館の活動ではスナガニの数や大きさなどを参加者や地域の子もたちとともに調べています。また、砂浜海岸で暮らしている稚魚（魚の



稚魚を調べる地曳き網

子ども)の種類や数を調べる地曳き網調査も始めました。興味のある方はぜひ参加してみてください。身近な砂浜やそこで暮らしている生きものを調べて、砂浜環境の大切さを学びながら自然の海岸を一緒に守っていきましょう。(山陰海岸学習館 和田 年史)

■普及活動一覧(4月～9月)

《野外観察会》「春の地曳き網体験～魚の赤ちゃん調べ～」
5月5日(火) 13時～17時 場所/熊井浜
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)
定員:30名(先着順)/申込期間:4/21～

《野外観察会》「バスでめぐるジオスポットツアー」
5月17日(日) 9時～15時 場所/鳥取砂丘から浦富海岸
対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
定員:40名(先着順)/申込期間:4/19～

《野外観察会》「砂浜でのスナガニの観察会～参加体験型調査～」
6月21日(日) 13時～17時 場所/熊井浜
対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
定員:30名(先着順)/申込期間:6/7～

《野外観察会》「ジオスポット海岸の石を調べよう！」
6月28日(日) 10時～15時 場所/大谷海岸ほか
対象:小学校5年～中学校3年(小・中学生とも保護者同伴)
定員:30名(先着順)/申込期間:5/31～

《野外観察会》「スノーケリングで海中生物観察」
7月4日(土) 13時～17時 場所/城原海岸
対象:高校生～一般(スノーケリング初心者)
定員:10名(先着順)/申込期間:6/20～

《野外観察会》「スノーケリングで海中観察(上級者向け)」
7月19日(日) 10時～17時 場所/城原海岸
対象:高校生～一般(スノーケリング経験者)
定員:10名(先着順)/申込期間:7/5～

《野外観察会》「磯の観察会」
7月25日(土)、26日(日)、8月1日(土)、2日(日)、6日(木)、7日(金)
いずれも9時～15時 場所/熊井浜
対象:中学生以下の児童とその保護者
定員:各回30名(先着順)/申込期間:7/11～

《自然講座》「夏休みの標本調べ相談室(海の生きもの編)」
8月16日(日) 10時～17時 場所/山陰海岸学習館
対象:小・中学生向け(小学生は保護者同伴)※申込は不要です。

《野外観察会》「スノーケリング・ジオ・ウォッチング～海の中の地形観察～」
9月5日(土) 13時～17時 場所/城原海岸
対象:高校生～一般
定員:10名(先着順)/申込期間:8/22～

《野外観察会》「秋の地曳き網体験～魚の赤ちゃん調べ～」
9月13日(日) 13時～17時 場所/熊井浜
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)
定員:30名(先着順)/申込期間:8/30～

※お申し込みは、原則電話のみの受付とさせていただきます。
※いずれの講座も参加無料で、集合場所は山陰海岸学習館です。

鳥取県立博物館付属『山陰海岸学習館』

- 開館時間:9時～17時(7月・8月の毎週土曜日は18時まで開館)(入館無料)
- 休館日:原則として月曜日(祝日の場合は翌平日)(7/20～8/31の間は毎日開館)
- 【お問い合わせ】〒681-0001 鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4
電話・FAX:0857-73-1445 E-mail: saninkaigan@pref.tottori.jp

お知らせ

平成21年4月から博物館の開館時間を延長します

4月～10月の企画展※開催期間中の

土曜日、日曜日、祝日は

午前9時～午後7時まで開館します。

※企画展とは、鳥取県立博物館が主催して行う特別の企画による展示です。

(鳥取県立博物館が主催する企画展以外の展示会においても、上記のように開館時間を延長する場合がありますので、詳しくは鳥取県立博物館にお問い合わせください。)



2009 5 MAY	《ワークショップ》 鯉のぼりをつくろう!	■5月2日(土)14時~16時/会議室 ■どなたでも/定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:4/18~
	《特別実習講座》日本蘇苔類学会共催 コケ・フォレー鳥取2009	■5月4日(月・祝)13時~6日(水・休)12時/会議室・博物館周辺 ■高校生~一般/定員30名(要申込・抽選) ※申込は往復ハガキで(マ切:4/10)
	《天体観望会》 春の星を見る会	■5月16日(土)19時~21時/前庭 ■どなたでも
	《アートシアター》 「世界のグレートアーティスト ルーベンスの世紀 不朽のフランドル絵画」	■5月16日(土)14時~14時30分/講堂 ■中学生~一般/定員250名
	《野外観覧会》 学芸員と楽しむ生きものウォッチング	■5月17日(日)9時~12時/鳥取市橋本公園 ■どなたでも/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間:4/23~
2009 6 JUN	《歴史講座》 とっとり城下町ウォーク in 立川	■5月23日(土)9時30分~12時/鳥取市立川周辺 ■高校生~一般/定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:5/1~
	《アートシアター》 《アニメ》「フランダースの犬」	■5月23日(土)14時~15時30分/講堂 ■どなたでも/定員250名
	《アートシアター》 「世界のグレートアーティスト クールベ色彩と技法の魔術師」	■5月30日(土)14時~14時30分/講堂 ■中学生~一般/定員250名
	《歴史講座》 古代生活を体験しよう	■5月31日(日)9時30分~13時30分/鳥取砂丘・柳茶屋キャンプ場 ■小学校4~6年生とその保護者/定員30名(要申込・抽選) ※申込は往復ハガキで(受付:5/1~5/20)
	《自然講座》 コケ・インテリアをつくろう!	■6月6日(土)13時~16時/会議室 ■どなたでも/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間:5/12~
	《アートシアター》 「世界のグレートアーティスト モネ 印象派の巨匠」	■6月6日(土)14時~14時30分/講堂 ■中学生~一般/定員250名
	《ワークショップ》 うるしでキーホルダーをつくろう!	■6月13日(土)14時~16時/会議室 ■どなたでも/定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:5/30~
	《アートシアター》 「続・美術のみかた 西洋美術の流れ」	■6月20日(土)14時~14時30分/講堂 ■中学生~一般/定員250名
	《歴史講座》 古文書を読む会(初級編1)	■6月21日(日)14時~16時/会議室 ■高校生~一般/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間:5/19~
	《野外観覧会》 きのこを調べる会	■6月27日(土)10時~14時/とっとり出会いの森(鳥取市) ■どなたでも/定員40名(要申込・先着順) ※申込期間:5/28~
2009 7 JUL	《ギャラリートーク》 収蔵品にみる三国志	■6月27日(土)14時~16時/近代美術展示室 ■中学生~一般
	《歴史講座》 古文書を読む会(初級編2)	■6月28日(日)14時~16時/会議室 ■高校生~一般/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間:5/19~
	《アートシアター》 「美術のみかた 印象派と色彩」	■7月4日(土)14時~14時30分/講堂 ■中学生~一般/定員250名
	《アートセミナー》 「印象派からフォーヴへ」展について	■7月11日(土)14時~15時30分/会議室 ■一般/定員40名
	《ワークショップ》 みんなで巨大壁画をつくろう!(仮称)	■7月18日(土)※時間未定/会議室 ■どなたでも
	《野外観覧会》 川原の石を調べよう!	■7月25日(土)10時~15時/若桜町八東川 ■小・中学生のみ/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間:7/7~
	《野外観覧会》 おちばの中のモンスターをさがそう!	■7月26日(日)13時~16時/水ノ山自然ふれあい館「響の森」 ■どなたでも/定員15名(要申込・先着順) ※申込「響の森」(0858-82-1620)へ、4/1~

2009 8 AUG	《歴史講座》 鳥取城探検隊	■7月26日(日)10時~15時/博物館・鳥取城跡 ■小学生~一般/定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:7/1~
	《アートシアター》 《アニメ》「タンタンの冒険旅行 ピーカー教授事件」	■8月1日(土)14時~15時/講堂 ■どなたでも/定員250名
	《自然講座》 コハクミがきを体験しよう!	■8月2日(日)10時~12時、13時~15時(1日2回開催)/会議室 ■小・中学生のみ/定員各回20名(要申込・先着順) ※申込期間:7/21~
	《歴史講座》 石器をつくろう	■8月8日(土)10時~12時、13時30分~15時30分(1日2回開催)/会議室 ■小学校4~6年生とその保護者/定員各回20名(要申込・抽選) ※申込は往復ハガキで(受付:7/10~7/29)
	《ワークショップ》 カラダで感じる・博物館(仮称)	■8月8日(土)※時間未定/講堂 ■幼児~小学生/※定員・申込方法未定 ※申込期間:7/25~
2009 9 SEP	《自然講座》 化石レプリカをつくろう!	■8月9日(日)10時~12時、13時~15時(1日2回開催)/会議室 ■小・中学生のみ/定員各回20名(要申込・先着順) ※申込期間:7/28~
	《自然講座》 夏休みの標本調べ相談室	■8月16日(日)10時~17時/会議室 ■小・中学生向け
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■8月16日(日)14時~15時/歴史・民俗常設展示室(復元民家) ■どなたでも
	《天体観望会》 夏の星を見る会	■8月22日(土)19時~21時/前庭 ■どなたでも
	《歴史講座》 古文書を読む会(中級編1)	■8月22日(土)14時~16時/会議室 ■高校生~一般/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間:7/21~
	《ギャラリートーク》 体感!アーティストの目(仮称)	■8月22日(土)14時~16時/近代美術展示室 ■どなたでも
	《歴史講座》 お金をつくろう	■8月23日(日)10時~12時、13時30分~15時30分(1日2回開催)/会議室 ■小学校4~6年生とその保護者/定員各回20名(要申込・抽選) ※申込は往復ハガキで(受付:7/24~8/12)
	《歴史講座》 古文書を読む会(中級編2)	■8月29日(土)14時~16時/会議室 ■高校生~一般/定員30名(要申込・先着順) ※申込期間:7/21~
	《野外観覧会》 秋の鳴く虫の夕べ in 出会いの森	■9月5日(土)18時~20時30分/とっとり出会いの森(鳥取市) ■どなたでも/定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:8/19~
	《アートシアター》 「絵を描く子どもたち」	■9月5日(土)14時~14時30分/講堂 ■一般/定員250名

※特に記載のないものは、申込不要、無料です。※申込みお問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。※小学生以下は保護者同伴。※展示会場内の講座は入場料が必要です。

鳥取県立博物館ニュース

MUSEUM PRESS No.7

平成21年(2009年)3月23日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042 (代)

FAX 0857(26)8041

URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース

「⑩仁風閣・県立博物館」下車すぐ

砂丘・湖山・賀露方面行

「西町」下車約400m

市内回り岩倉・中河原方面行

「わらべ館前」下車約600m



株式会社 吉備総合電設
き び そ う ご う で ん せ つ

電気・防災・保守